

新団体やメンバー 新たな胎動

トレンドに迫る!

大阪の女義太夫

女性の太夫・三味線が演奏する「女義太夫（女流義太夫とも）」。かつて大阪はその一大拠点だったが、近年、演奏会と演奏家が激減し、芸能の継承が危きまれていた。ところが最近になって新団体の演奏会やワークショップがスタート。関心を寄せる人も増え、新たな胎動が生まれている。

義太夫節は淨瑠璃（三味線）を伴奏とし、太夫が詞章を語る。



る語り物の一種。17世紀後半に竹本義太夫が大阪・道頓堀で創始した。現在も人形淨瑠璃文楽の舞台で見られるが、文樂の技芸員は男性のみ。

一方、女義太夫は太夫と三味線だけの素淨瑠璃で、親子の情の深い表現など、男性の義

太夫とはまた異なる魅力を放つ。江戸期から存在したが、明治中期に各地で大ブームとなり、竹本綾之助、豊竹呂昇といったスターが生まれ

た。若者が熱狂し、演奏の佳境に「びっくりする」「うする」と声をかける「どうする連」を作ったのも有名な話。

だが、この状況を開拓する動きが約2年前から現れ始めた。

まず「女流義太夫 瑠璃の会」の始動。東京の太夫、竹本佐恵が「義太夫節の発祥の地・大阪でも自主公演を」と大阪方の背中を押したこと

が契機となって生まれた会

で、17年、かつて文樂座があり、17年、かつて文樂座がある大阪の「人形淨瑠璃因協会」が、公益法人制度改革の余波などで、2010年には解散したことがある。江戸期の同業者団体の流れを継ぐ因協会は、序列を示す「顔附の発行による表彰などと共に、女義太夫の定期公演も行っていた。解散は文樂公演の支障にはならなかったが、女義太夫の発表の場は失われてしまつたのだ。ペラン陣の死去、若手が子育て期に入ったこともあり、15年前には30人以上を数えていた大阪の演奏家は数人にまで減少。一般社団法人「義太夫協会」の女流義太夫の演奏会や教室が開催されている東京と違い、危機的状況に陥った。

関東大震災、第二次世界大戦を経て、隆盛は失われたものの芸脈は続いてきた。だが大阪では、ここ10年余りで特に衰退。原因の一つには、文樂の技芸員や女義太夫が属っていた大阪の「人形淨瑠璃因協会」が、公益法人制度改革の余波などで、2010年には解散したことがある。江戸期の同業者団体の流れを継ぐ因協会は、序列を示す「顔附の発行による表彰などと共に、女義太夫の定期公演も行っていた。解散は文樂公演の支障にはならなかったが、女義太夫の発表の場は失われてしまつたのだ。ペラン陣の死去、若手が子育て期に入ったこと

もあり、15年前には30人以上を数えていた大阪の演奏家は

数人にまで減少。一般社団法人「義太夫協会」の女流義太夫の演奏会や教室が開催され

た。太夫の豊竹呂昇、豊竹呂昇は、それぞれ会社員、公

務員。文化教室で義太夫を学び、17年に文樂の豊竹呂昇に入門。瑠璃の会があることを知つて「飛び込むなら今」と、初舞台を踏んだ。ほかに

住輔の弟子の住静、住蝶・住

が、既に完売している。

フレッシュなメンバーも加わった。第2回でデビューし

た太夫の豊竹呂昇、豊竹呂昇は、それぞれ会社員、公

務員。文化教室で義太夫を学び、17年に文樂の豊竹呂昇に入門。瑠璃の会があることを知つて「飛び込むなら今」と、初舞台を踏んだ。ほかに

住輔の弟子の住静、住蝶・住